

式辞

つい先日まで厳しい寒さと大雪をもたらした冬将軍が去り、いよいよ草木が芽吹く弥生の時を迎えました。

まん延防止等重点措置発令中の為、規模を縮小した形にはなりますが、本日ここに、金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校第73回卒業式を挙行できますこと、皆様と共に喜びたいと思います。

第73回生117名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。本校関係者一同は、これまでに皆さんが尽くされた努力と研鑽を心から讃えます。

また、今日まで、長きにわたりお子様の修学を支え励ましてこられた保護者の皆様に対しましても、深く敬意を表します。

本校は、皆さんが入学した年に文部科学省からWWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業拠点校の指定を受け「地球サイズの教育」を実践してまいりました。大学に入学する際に必要とされる学力を身に付けることはもちろん、意欲的に学習や研究を遂行することのできる力の育成、さらに加えて豊かな人間性を育む全人教育に取り組み続けています。広い視野から課題を見つけ、それを解決するために探究的に学ぶ姿勢は、大学ではもちろん、4月に18歳成人の第1期生となる皆さんが社会に出るころには、ますます必要とされる資質です。

グローバルな人材を育てることをめざす本校の伝統的な校風は「自主自律」です。この校風は、「昭和の松下村塾」を標榜し設立された、本校創設時からの伝統です。この校風の下、皆さんの先輩は、さまざまなことに自主的に取り組み、社会に貢献できる行動力を身に付けるとともに、自らの行動に責任を持ち、自分が為すべきことを誠実に果たしていこうとする精神力を身に付けてこの学び舎を巣立たれました。自分で自分を律することができるプライドをもつことが本校の卒業生の証です。本日卒業される皆さんにも間違いなくこの精神が息づいています。

コロナ禍の影響で、1年生の3学期以降、皆さんの学校生活は大幅な制限の中におかれしました。そのような中であって、シンガポールの海外現地研修を急遽国内現地研修に変更しての実施や歌劇座と本校の2会場を使つての「開校記念祭」の実施などは、その後、他の学校が参考にできる形のいち早い提案でした。状況に応じた臨機応変な対応を見せてくれたことを誇らしく思っています。2年連続で中止した「歌の祭典」や対面での「如月祭」を現在の1・2年生は経験していません。感染状況の改善如何ではありますが、それらの行事を感染拡大前の形で実施できる状況になった際には、是非、在校生に力を貸してあげてください。

私は皆さんと2年間を共にしました。受験期にもかかわらず大雪の朝に雪まみれになりながら自主的に除雪に取り組みその後登校する仲間の為に通学路を確保する姿、高総体や高文祭の応援に駆け付けた時に温かい雰囲気迎え入れてくれた心遣い、3泊4日バスに揺られ疲れて帰ってきた直後の金沢駅で「校長先生、修学旅行に行けてよかったです」と多

くの人が声をかけてくれたこと、入りづらひであろう校長室に足を運び悩みを打ち明けてくれた時間、朝の登校時に爽やかな笑顔と共に挨拶を返してくれた皆さんの姿を決して忘れません。

本校は、1学年3クラスの小規模校です。それゆえ、その関係性は濃密です。先輩方の多くは、「附属高校での出会いが、今の自分を支えている」と口にされます。本校で結ばれた絆は、一生の宝です。同級生に限らず、9千名を超える先輩方、そしてこれから続いてくる後輩とのつながりは大きな財産です。

「学びて去らばふり顧れ」校歌の一節です。どうぞ、本校を卒業したことに誇りをもち、日本を牽引し、世界に羽ばたいてください。そして折に触れ、本校で過ごした時を振り返ってください。近況を報告しに来てください。いつでも大歓迎します。

結びに、卒業生の皆さんの前途に幸多からんことを祈念して式辞といたします。

令和4年3月4日

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校

校長 中澤宏一